

生涯学習社会における社会教育施設のあり方について
～公民館の今後のあり方について～

令和元年 8 月 26 日に摂津市社会教育委員会議から、「生涯学習社会における社会教育施設のあり方について～公民館の今後のあり方について～」答申を受けました。

答申の内容は別府コミュニティセンターが社会教育・生涯学習の拠点、地域コミュニティの拠点として機能していることを評価するとともに、公民館等の既存の社会教育施設が老朽化、バリアフリー化の課題もあることから、新たな公共施設は公民館機能も含め多機能化、多目的化する必要があるということが主たる論点です。

摂津市教育委員会は、人生 100 年時代を迎え、社会教育・生涯学習の重要性を確認するとともに、一方で人口減少化社会が進行する中、従来の社会教育施設の枠組みにとらわれることない柔軟な考え方が必要との共通認識に立ったうえで、公民館の今後のあり方については、老朽化に伴う建て替え等の機会をとらえ、多機能化、多目的化に資する新しい公共施設とすることを承認します。

なお、摂津市教育委員会として、社会教育・生涯学習の観点から公民館機能、図書館機能の充実はもとより、学校教育の観点から自学自習機能、子育て支援の観点から子どもの居場所機能を検討するよう意見を付します。